

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金企画研究プロジェクトⅠ（教員・学生参加型） 2024年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏 名
	スポーツウエルネス学科・3年	池口祐可
指導教員	所属・職名	氏 名
	スポーツウエルネス学部・教授	佐野信子
研究課題	ジェンダーの視点に則った我が国における 学校体育の男女共習に関する研究動向の把握	
研究年度	2024年度	
プロジェクト 分担者	末田みこと・村井璃音	

プロジェクトの内容及び成果の概要

本プロジェクトは、学校体育における「男女共習」をジェンダーの視点からレビューし、現状や課題を明らかにすることを目的としたものである。我が国において「男女共習」体育が本格的に導入されたのは2017年度に中学校で告示され、2021年度に完全実施となった。一方で、高等学校では2018年度に告示された学習指導要領解説編において「男女共習」が原則とされたものの、実施状況には学校や教員ごとに差があり未実施の学校も散見される。本プロジェクトでは、中学校および高等学校を対象に「男女共習」体育の現状や課題、そしてその解決策をジェンダーの視点から考察することを目指した。具体的には文献研究を通じて「男女共習」体育がどのように捉えられ、指導が行われているのかについて明らかにした。また「男女共習」未実施の背景にある要因を分析し、運動が得意な女子や苦手な男子を含め、すべての生徒が楽しめる学校体育の在り方を検討した。そして「男女共習」体育実現のために求められる教員の指導方法や支援体制を提案した。本研究分野において、特に高等学校の男女共習体育に関する研究が少ないことから、未開拓の分野における重要な知見を提供する点で独創性が高いといえるが、先行文献が少ないことから、今回のプロジェクトでは、中学生の体育を中心とした。村井は、卒業論文を「中学校における男女共習体育授業に関する一考察」と題し執筆した。本プロジェクトの一貫として8月に開催された日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会に参加したことから新たな知見を得ることで、卒業論文の精度を高めることが可能となった。

プロジェクトメンバーの役割としては、先述の通り、村井が学会に参加し新しい知見の収集と資料の共有を担当したが、その知見は他のプロジェクトメンバーにも共有された。学会参加した村井は、毎晩、「璃音新聞」を発行し、他のプロジェクトメンバーに送信した。一方、代表者である池口と末田は国内で発表されている文献の収集を担った。また成果や進捗を共有しながら相互関係を維持する体制を整えた。

本プロジェクトは、コミュニティ福祉学部の教育・研究と密接に関連している。1989年度の学習指導要領改定によって「男女別修」から「男女共修」への転換が進められた教育の歴史的背景を踏まえ、現在の「男女共習」体育を推進する取り組みは「いのちの尊厳のために」というコミュニティ福祉学部の基本理念と一致する。

本プロジェクトの成果は、学校体育におけるジェンダー平等を推進し、生徒一人ひとりが楽しく参加できる体育の実現に寄与するものである。今後、学校体育の領域から、ジェンダー平等と福祉の視点を融合した新たな学術的貢献を行うことも検討している。また、改めて高等学校の「男女共習」にも挑み、さらに研究を深めていきたい。